

すっかり秋ですね。日中の寒暖差が大きく体調を崩す方が多いです。体調管理に気をつけましょう。

①2019年スギ花粉飛散予想

株式会社ウェザーニューズは、2019年の花粉シーズンに向け、「第一回花粉飛散傾向」(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)を発表しました。2019年のスギ・ヒノキ花粉シーズンの花粉飛散量は、西日本の一部で平年をやや下回る地域もありますが、全国的に平年並か、平年より多い予想です。全国平均では平年の6割増となり、特に、東日本を中心に予想飛散量が平年の1.5～3倍になるとみえています。東日本を中心に、6年ぶりの大量飛散となる恐れがあるため、ここ数年、花粉症の症状が軽かった方も油断せず、2019年シーズンは早めの対策がおすすめです。

一般的に、前年の夏に十分な日照があり、気温が上がるほどスギ・ヒノキ花粉の発生源となる雄花の生育が活発になる傾向があります。よく晴れた暑い夏ほど植物の光合成が盛んになるからです。(北海道のシラカバ花粉も同様) 2018年は梅雨明けが早く、太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しが強まり、上空で2つの高気圧が重なる“ダブル高気圧”の影響で、西・東日本を中心に記録的な猛暑となりました。西・東

日本では日照時間も多く、雄花の生育に適した天候だったと言えます。一方、雄花の数は夏の天候が決め手となりますが、雄花の中で生成される花粉数は、秋の天候が影響を与えとも言われています。今後の天気傾向にも注目です。花粉の飛散量は隔年で増減し、例えば、花粉が減少する“裏年”の翌年は、飛散量が増加する“表年”となる傾向があります。2018年は多くのエリアで“裏年”だったため、2019年は“表年”となり、花粉の飛散量が増加する予想です。東海地方では2018年の夏は、高気圧の影響で晴れた日が多く、記録的な猛暑となりました。日照時間も平年を大きく上回り、スギ・ヒノキの雄花の生育に適した条件であったと考えられます。夏の天候と隔年の飛散傾向から、2019年シーズンの予想飛散量は、平年より多い1.22～2.43倍、2018年シーズンの1.84～5.47倍となる予想です。特に、ピーク時は大量飛散の恐れがあります。2014年～2018年は、飛散量が比較的少ない年が続きましたが、2019年はここ数年に比べて症状がつかく感じる可能性が高いため、早めの対策がおすすめです。



院長



医療事務 堀

朝晩が秋らしくなりコーヒーも温かいものを飲みたくなります。今年友人から薦められてネスカフェのバリスタを購入しました。インスタントコーヒーの粉から本格的なコーヒーが楽しめます。味の調整が出来濃いめが好きな私にぴったりで、スマホアプリでコーヒーを調整して入れることが出来ます。お奨めです。

久しぶりに、Zepp名古屋にライブを観に行きました。ライブハウスはステージが近いし、やっぱり楽しい～♪♪しかしオールスタンディングは、脚、腰、腕が痛いです…。翌日は湿布をはって仕事しました。でも懲りずにぎっとまた行きます！この季節いっぱい楽しみましょう。



耳鼻咽喉科まつだクリニック

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	×	○	◎	×
3:30~6:30	○	○	○	×	○	×	×

診療科目
耳鼻咽喉科
アレルギー科
気管食道科

◎ 9:00~13:00 休診日 木、日曜日、祝日

篠木町6丁目2426番地 (篠木6丁目バス停前)
☎ 0568-86-4133 予約 0568-86-4890
ホームページ: <http://www.matsu-cl.com>